



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

東京都 板橋区立赤塚第一中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：鶴岡 剣太郎 先生（スキー／スノーボード）【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■ **期 日**：2023年9月22日（金）

■ **ク ラ ス**：8年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●自己紹介後、今日はオリンピックについて探求し、自分の成長できることを考え、皆で最高の時間にしようと3つの目標を紹介する。約束事として、全力を尽くすこと、協力し合うこと、ルールを守ることの3つを意識して今日の授業に取り組んでほしいと伝える。準備体操後、「じゃんけん勝ち抜け」を実施(全3回)。ゴールまでの3箇所で行い、勝った人は1つ先に進み、負けた人はスタートに戻る。2回目からはクラス全体のゴール目標人数を設定し、皆で考えた作戦で挑戦し、3回目に目標達成。

○主運動等



●主運動は「8の字跳び」を実施(全3回)。左右から8の字を描くように1人ずつ順番に縄に入って跳び、90秒間で連続して跳べた回数をチームで競う。縄に引っ掛かった場合は、1回から数え直す。ルール説明後、作戦タイムを設け、縄を回す人を決め、多く跳べるための作戦を考える。2回目からは、チームの目標回数を設定し、ホワイトボードに書いてから挑戦。最後に実行した作戦を共有し、移動距離を縮めるため縄を短くした、苦手な人のためにゆっくり回したなどの案が出る。目標回数を設定したことにより、何が必要なかをより具体的に考え、全力を尽くしたことが素晴らしいと称える。



●運動の時間を振り返り、先生が授業冒頭で伝えた3つの目標を意識してくれていたのが、記録を伸ばすために自ら向上し、良い時間を皆で作ることができていたのがオリンピックらしさを感じた。座学の時間では、オリンピックの価値について一緒に考えたいので、運動の時間で感じたことを心の中で振り返り、言葉にする準備をしようと話す。今日という日は2度と来ないので、座学の時間も、自分自身がどのように関わられるか考えながら、全力で参加してほしいと伝え、授業終了。

■ オリンピアン：鶴岡 剣太郎 先生（スキー／スノーボード）【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■ 期 日：2023年9月22日(金)

■ ク ラ ス：8年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●競技映像を見ながら、トリノ2006冬季大会にスキー／スノーボードで出場したと自己紹介。雪の降らない千葉県で育ったがスノーボードに魅了され、中学生の時に冬季競技でオリンピックに出場する夢を持った。両親と先生に自分の思いを打ち明けると、反対することなく応援してくれ、山形県の学校へ進学した。勇気を出して相談したこの1歩が、後々のオリンピック出場につながっている。本番では転倒し後悔もしたが、目標達成のために努力を積み重ね、全力で集中して取り組むことの大切さを学んだ。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間、校外学習、合唱コンクール等の活動からオリンピズムを探し、オリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「何事にも挑戦する」「自分ができないことを見つけて克服していく」「積極的に取り組む」等
 フレンドシップ：「仲間と協力を」「仲間に声掛けをする」「協力して苦手な部分を補い合う」「良い雰囲気を保つ」等
 リスペクト：「勝敗関係なく尊重」「相手の弱みに気づいたら助ける」「他チームが勝っても敬意を払う」「他人を尊敬する」等



●オリンピックは、選手達が順位やメダルを争うだけの大会ではなく、目標を目指す過程の中で生み出される経験や成長が世界平和へ貢献するという考えを大切にしている。皆の日常にも存在するオリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を日々意識して生活することで、自分を向上させることができる。今日の授業をきっかけに「できるかも知れない」「取り組んでみたい」という姿勢を持つことを忘れずに、少しずつでも前に歩み始めてくれたら嬉しいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：沖美穂先生(自転車／ロード)
【出場オリンピック／シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会】
- **期日**：2023年9月21日(木)
- **クラス**：8年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●自転車／ロードでオリンピックに出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「仲間」「チームワーク」、エクセレンス：「フェアプレー」「仲間を大切にすると説明。運動の時間を通して、これらの価値を体験し、覚えてもらいたいと授業の目的を確認。「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。2人組になり、広げた新聞紙の上に乗ってじゃんけんをし、負けた人は新聞を半分折り、立てられなくなるまで繰り返し実施。

○主運動等



●主運動として「トライリレー」を実施(全3回)。バスケットボールまたはバレーボールのどちらかを選んで使用する。チーム毎に後ろ向きで一列になり、先頭から後ろの人へ頭の上からボールを手渡ししたら、最後尾に移動し、折り返し地点まで繰り返す。復路は、足の間からボールを渡し、最後尾に移動してスタート地点まで続ける。その後、ドリブルしながら1人1往復し、全員がゴールするまでのタイムを競う。途中、作戦タイムを設け、各班で作戦を立てて実施。



●主運動終了後、生徒に工夫した点を尋ね、「ボールをバスケットボールに替えた」「ボールを渡す時に前の人のとの距離を意識した」「ボールを前へ送るよう意識してドリブルした」等が出る。相手のことを考えて渡す様に意見を出し合い、一生懸命リレーに取り組んだことは、オリンピックバリューに当てはまる。意識して取り組んだ結果として、全てのチームが1回目のタイムを大きく縮めることに成功した。座学の時間では、皆でオリンピックバリューについてより深く考えたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：沖美穂先生(自転車/ロード)
【出場オリンピック/シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会】
- **期 日**：2023年9月21日(木)
- **ク ラ ス**：8年2組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●自転車/ロードで3大会連続で出場したと自己紹介。スピードスケートから転向し、日本人初の女子プロロードレーサーとして海外で10年間過ごす。自分に嘘をつかない、逃げない、ごまかさないことを心に留め、自分に正直に向き合い取り組むことの大切にしてきた。言葉の壁はあったが、自分の意志を伝え、相手を理解しようとする姿勢でチームとの関係を築く。ロードレースは個人競技だが、長距離長時間の過酷なレースのため、エース選手の風よけになる等のチームワークを活かした戦術が必要。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に工夫して良かった点をオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「本気で取り組んだ」「あきらめずに努力した」「ドリブルの時に全力で走る」「ベストを尽くした」等
フレンドシップ：「仲間と協力し作戦を考えた」「仲間を応援した」「団結力を高めるためチームワークを意識した」等
リスペクト：「ルールを守った」「ミスした人を責めない」「ボールを投げずルールを守った」等



●運動の時間の経験からオリンピックバリューをしっかり理解し、言葉に変換して発表してくれていたことが素晴らしい。先生は、スポーツを通して人生の目的や広い視野を持つことができるようになり、世界中に多くの仲間が出来た。世界中の選手と切磋琢磨する中で、一生懸命頑張ることの素晴らしさを学び、スポーツは国や文化を超えて世界をつなげることができると感じた。皆もスポーツや勉強に限らず、どんなことでも良いので目標を持ち、目標達成のため挑戦して行ってほしいと話し、授業終了。

- オリンピック：沖美穂先生(自転車/ロード)
【出場オリンピック/シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会】
- 期 日：2023年9月21日(木)
- ク ラ ス：8年3組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●自転車/ロード競技でオリンピックに出場したと自己紹介。今日の授業を通して、オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を自分の生活に活かせるように習得してほしいと授業の目的を確認。準備運動として「新聞じゃんけんバランス」を実施(全2回)。2人組になり、広げた新聞紙の上に乗ってじゃんけんをし、負けた人は新聞を半分折り、立てられなくなるまで繰り返し実施。2回目は、靴を脱ぐ等の工夫をして挑戦する姿もあった。

○主運動等



●主運動として「トライリレー」を実施(全3回)。バスケットボールまたはバレーボールのどちらかを選んで使用する。チーム毎に後ろ向きで一列になり、先頭から後ろの人へ頭の上からボールを手渡ししたら、最後尾に移動し、折り返し地点まで繰り返す。復路は、足の間からボールを渡し、最後尾に移動してスタート地点まで続ける。その後、ドリブルしながら1人1往復し、全員がゴールするまでのタイムを競う。途中作戦タイムを設け、各班で作戦を立てて実施。人数が足りないグループには、担任の先生や沖先生も参加して実施。



●トライリレーで工夫した点を尋ねると、「ドリブルがし易いバスケットボールにした」「渡す時の腕の長さを考えて背の順にした」「ドリブルの上手い人がコツを教えた」等、生徒から回答が挙がる。皆の考えた工夫の内容やリレーに取り組む様子から、エクセレンス：「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「チームワーク」、リスペクト「相手を思いやるフェアプレー」のオリンピックバリューを感じた。座学の時間では、オリンピックやオリンピックバリューについて、皆で具体的に考えたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：沖美穂先生(自転車／ロード)
【出場オリンピック／シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会】
- **期日**：2023年9月21日(木)
- **クラス**：8年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・シドニー2000大会、アテネ2004大会、北京2008大会に自転車／ロード競技で出場したと自己紹介。オリンピックシンボルの5色と背景の白を合わせた6色で世界の国旗が描け、5つの輪は5大陸を表し、世界団結の意味がある。大きな夢や目標を持つことも大事だが、挨拶する、ペットの散歩をする、物を大事にする等、当たり前のことをするように取り組んでほしい。目の前の小さな目標をこなすことに慣れることで、物事へのやりがいを見つけたり、自分が目指すゴールを明確にすることができる。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に工夫して良かった点をオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「記録を更新するために努力する」「順位を上げるため全力で取り組む」「工夫を積み重ねる」等
 フレンドシップ：「ボールを相手を取りやすいように渡す」「味方に声掛けし応援した」「仲間と協力して作戦を考えた」等
 リスペクト：「他チームも応援した」「結果発表の時に拍手し健闘を称え合った」「ルールを守る」「班員を尊重した」等



・皆の発表を聞き、先生が伝えたかったオリンピックバリューをしっかりと理解してくれていたことが分かり嬉しい。チームメイトとは、レース中は真剣に勝負し合う仲でも、水を渡したり、協力し合うことで、団結力やお互いを認め合うことの大切さを学んだ。当時の仲間とは競技を通じて文化や国籍を超えた関係を築き、引退してから10年以上経った今でも交流を続けている。皆もオリンピックバリューを意識して日々を過ごすことで、自分を大きく成長させ、夢を達成するためにチャレンジしてほしい。

■オリンピック：鶴岡 剣太郎 先生（スキー／スノーボード）【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■期 日：2023年9月22日(金)

■クラス：8年4組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●自己紹介後、今日の目標は、皆がオリンピックの考え方を普段の生活で生かせるようになること、自分が成長するために何が必要かを考えること、皆で最高の時間にする事だと伝える。運動の授業では、全力で取り組み、仲間で協力し、人の話をよく聞いてルールを守ることの3つを約束してほしい。準備運動は、3チームに分かれ「ボール回しゲーム」を実施(全2回)。ボールを全員で触りながら前から後ろに送り、全員が座るまでの早さを競う。1回目の後、ルールを再確認し、チームで作戦を考えて実施。

○主運動等



●主運動は、3チーム対抗で「8の字跳び」を実施(全3回)。90秒間に連続して跳べた回数を競う。縄に引っ掛かった場合は、1から数え直す。ルール説明後に作戦タイムを設け、縄を回す人を決め、連続して多く跳ぶための作戦を各チームで相談して話し合う時間を設ける。1回目終了後、前回の記録を上回るにはどのようにすればいいか作戦タイムを設けて実施した。3回目は目標回数をホワイトボードに書いてから実施。最後に工夫した点を尋ねると、「目標を大きく設定し全力で取り組んだ」「縄を回す大きさと速さを工夫した」「跳ぶ位置のアドバイスをした」等の回答が挙がった。



●運動の時間を振り返り、目標回数を越えられなかったチームもあるが、経験を重ねることで、記録を伸ばすためには何が必要か皆で考えることができた。跳び方を工夫して挑戦したこと、最後には反省点を見つける実績を作ったことが大切だと話す。次の座学の時間では、オリンピックが大切にするオリンピックバリューについて、より深く考える時間にしていきたいので、運動の時間で意識したことや感じたことからつなげて発想できるようにしようと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：鶴岡 剣太郎 先生（スキー／スノーボード）【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■ **期 日**：2023年9月22日(金)

■ **ク ラ ス**：8年4組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・トリノ2006冬季大会に出場時したと自己紹介。ピエール・ド・クーベルタンは、スポーツを通じてバランス良い心と体をつくり、世界の人が交流することで、平和な世界を目指そうと考え近代オリンピックを創設した。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「自分の強み弱みを知ること」、フレンドシップ：「友情」「やる気にさせてくれる存在」、リスペクト：「敬意／尊重」「心のものさし」と紹介。オリンピック選手が懸命に挑戦する姿や表情の背景には、3つの価値が沢山詰まっている。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間からオリンピズムを探し、オリンピックバリューに当てはめよう。

発表：エクセレンス：「相手を研究し勝つための作戦を考える」「明るく前向きに頑張る」等

フレンドシップ：「声を掛けて励ます」「大きな声を出し協調性とやる気を出す」「仲間を理解しチームの役割を考える」等

リスペクト：「他人の意見を尊重する」「できる人を尊敬し教わる」「仲間が失敗しても責めない」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、皆の生活にも活かしていけば、自分の成長に役立てられることに気づいてもらえたと思う。先生は中学校の時、自分に挑戦するために大きな決断をした。失敗した経験もあるが、現在は次の夢や目標に向かって頑張ることができている。皆も今後の人生で困難なことに直面した時、今日学んだオリンピックバリューを思い出し、どうすれば乗り越えられるかを考え、恐れずに挑戦し続けてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：小野 真由美 先生 (ホッケー)

【出場オリンピック／北京2008大会、リオデジャネイロ2016大会】

■期 日：2023年9月21日(木)

■ク ラ ス：8年5組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●ホッケー競技でオリンピックに出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「友情」「チームワーク」、リスペクト：「敬意/尊重」「ルールを守る」と説明する。ホッケーはオリンピック競技の中でも観戦する機会も少ないと思うが、運動の時間では皆で思い切りホッケーを楽しみながら、オリンピックバリューを体験してほしいと授業の目的を確認。準備体操後、ホッケーのドリブル練習を実施。

○主運動等



●主運動はホッケーの試合を実施し得点を競う(各チーム2試合、全6試合)。試合前にルールについて説明する(①スティックを振り回さない、②体が接触するタックルをしない、③ボールを手で触らない、④ボールが足に当たると反則、⑤スティックは必ず両手で持ちスティックでのみ運ぶ、⑥左手でスティックの端を持ち、右手で真ん中を持つ)。実際の試合では、平らな面だけでボールを操作すると説明。全員が初めて経験する競技だが、失敗を恐れずに挑戦し、ミスをしてもお互いに責めず、一生懸命応援しながら楽しんでほしいと話す。ボールは叩かずには押しすようにして、道具による怪我など起こさないよう注意しようと伝える。



●初めてホッケーを体験してもらったが、選手と同じ様に競技を通してオリンピックバリューを体現できていたことが素晴らしいと称え、クラス全員で拍手を送り合う。ベストを尽くし一生懸命に取り組む姿は「エクセレンス」、名前を呼び合い、掛け声を掛け、チームワークを発揮している姿は「フレンドシップ」、ボールをキックし、反則をしまった時に素早くボールを相手チームへ譲ったことは「リスペクト」である。座学の時間では、自分の経験を伝え、オリンピックバリューについてより深く考えたい。

- **オリンピック**：小野 真由美 先生 (ホッケー)
【出場オリンピック／北京2008大会、リオデジャネイロ2016大会】
- **期 日**：2023年9月21日(木)
- **ク ラ ス**：8年5組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●北京2008大会とリオデジャネイロ2016大会にホッケーで出場したと自己紹介。国際大会では約260試合に出場したが、負けることが多く、オリンピックでのメダルを獲得する夢は叶わなかったが、競技を通して得たものは多い。沢山の人の出会い、周囲の人に支えて貰い、夢に向かって長い間努力を続けることができた。オリンピックバリューの「フレンドシップ」について、仲が良い悪いではなく、互いを理解し、相手のために何ができるか考えて行動すること、また、相手を信頼できることだと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：合唱祭に向けて、どんなオリンピックバリューを意識するか書いてみよう。
 発表：エクセレンス：「自信を持って諦めない」「質と量を考え、とにかく練習」「しっかり声を出す」「姿勢を正しく胸を張る」等
 フレンドシップ：「皆で協力する」「気持ちを1つにする」「改善点を言い合い直す」「足りない部分を補い合う」等
 リスペクト：「互いを尊重する」「教えてくれる先生に感謝し、教えられたことを意識する」「ふざけない」等



●合唱祭では、皆で考えて発表してくれた内容を行動に移し、全力で頑張ってもらいたい。最後に出場したアジア大会で初の国際大会金メダルを獲得し、努力の証として宝物にしているが、結果が全てではない。競技人生で積み上げてきたものは、今の自分に活かされており、目標に向かって頑張る過程に学びがあったことが分かったと話す。皆も今は目標が無くても、自分の思いから目を反らさず、自己を見つめることで、夢や目標を見つけることができるので、今後も頑張っていってほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・8年1組



・8年2組



■集合写真

・8年3組



・8年4組



■集合写真

・8年5組



■ 記念品贈呈

・ 8年1組



・ 8年2組



・ 8年3組



・ 8年4組



・ 8年5組



■ 修了証贈呈

